

ワークショップ進行シート

作成日： 2016年 8月 5日

タイトル：「日本の中の世界を知ろう」～多文化共生のために～

ファシリテーター（グループ）： 新潟大学

1：本ワークショップの要旨

日本で暮らす外国人は年々増加傾向にある。一口に外国人と言っても国籍も多様であり、全国各地で様々な事情を抱えながら生活していて、その場所によって様々な特徴・問題が存在する。このような在留外国人の実態やこれまでの経緯、最近の傾向などを説明し、実際に「自分が外国人の立場だったらどうか」ということを考えてもらう。

2：本ワークショップの目的(目標、実現したいこと)

日本において、「外国人と共に暮らす」ということに実感を持てる人は多くはないと思う。しかし、日本にはすでに外国籍の人々が多く住んでいる地域や学校などがある。そのような「日本の中の世界」を知ることで、外国人と共に暮らす社会というものを身近に感じてもらい、私たちにできることは何か考えるきっかけにしたい。

3：本トピックをとりあげる理由

新潟は全国的に見て外国人が少ない県であり、「外国人と共に暮らす」ということを意識する機会はありません。しかし、日本で暮らす外国人は増加しており、将来的に身近に外国人がいる環境で暮らす可能性は十分にある。日本ではどこか他人事のように考えられている気もするが、移民・難民問題に揺れるヨーロッパ諸国や傷ましいテロなどの話題が連日のように取り上げられている今だからこそ、「外国人」という存在を身近なこととして捉えてもらうことは意味のあることだと思う。

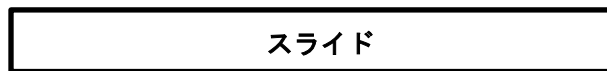
4 : 活動過程 (使用時間 : 90 分 参加人数 : 未定)

過程 (所要時間)	活動内容	具体的な発問・説明・動きなど	ねらい	使用する教材・備品	予想される反応・その他、注意事項
導入 : 起 (20 分)	本日のねらいの確認 日本の現状と外国人への期待 クイズ形式で現状を紹介する	「日本の中の世界」を知ることを通じて、多文化共生について考えていきたい。 「日本は少子高齢化の影響もあり、将来的な労働力不足が懸念されます」 「そこで、外国人も労働力として受け入れられるのではないかという期待が出てきました」 「では、今現在日本で暮らす外国人は何人いるでしょうか？」(選択肢が書かれた紙を持った人を配置するか壁に貼って移動してもらう) 「外国人の人口はこのように年々増えてきています」(グラフを見せながら)	本ワークショップの意味を共有する 日本にいる外国人の数は多いとおもうか少ないと思うか、各個人に考えてもらう 外国人が増加傾向にあることを知ってもらう 動いてもらうことでアイスブレイキング的な要素もある 日本の現状と外国人への期待を伝えることで、日本に外国人が増えていくということを意識させる	スライド (Power Point) 紙 (選択肢提示)	外国につながりをもつ児童生徒がいる場合は配慮する 児童生徒の知識や経験にもとづいた反応を尊重する 「たくさんいるなあ」「意外と少ないなあ」
展開 : 承 (20 分)	グループワーク 「外国人と聞いてなにをイメージしますか」	「あなたは地域に外国人が増加することについてどう感じますか？」 「グループで意見を出し合って書き出してください」 代表がグループで出た意見を発表	「外国人」に対してどのようなイメージを持っているのかを把握する	模造紙、ポストイット、ペン	まず個人で考えてもらう グループで意見を出し合い、プラスイ・マイナスイメージを整理する

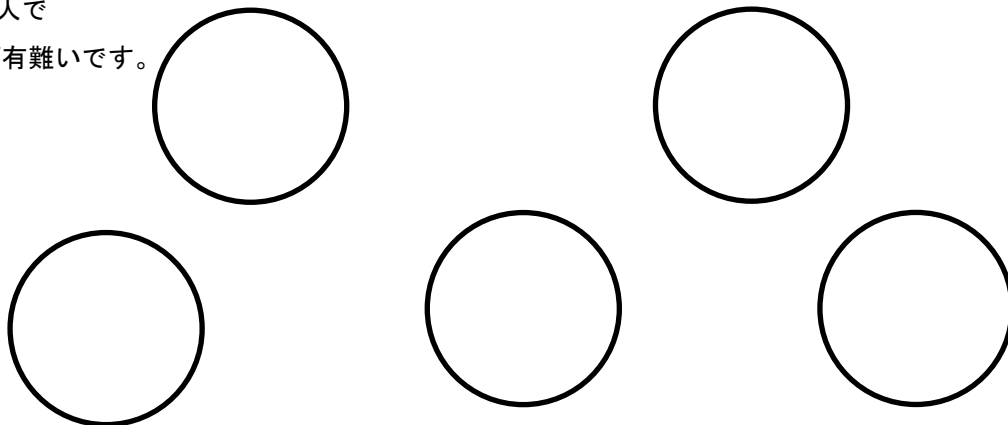
<p>発展 : 転 (30 分)</p>	<p>外国人が多く住む地域の紹介 (良い面)</p> <p>大泉町・知立市紹介</p> <p>「外国人が困っていること」の提示</p>	<p>(上の質問で出されたプラス面の意見を踏まえて)</p> <p>横浜中華街・新大久保 (コリアンタウン)・大泉町など、観光地として栄えていたり、外国の文化が根付いている地域を写真を交えて紹介する。</p> <p>・群馬県大泉町の外国人人口の割合、なぜ外国人が増えたのか</p> <p>・愛知県知立市立知立東小学校は全校生徒の約6割が外国籍であり、日本を含め12か国の生徒がいる</p> <p>といったことを紹介</p> <p>(上の質問で出されたマイナス面の意見を踏まえて)</p> <p>・怖い→犯罪増加するのでは</p> <p>・言葉が通じなくてコミュニケーションが取れない</p> <p>などの問題点に加え、</p> <p>・ダブルリミテッド (アイデンティティの確立、自立)</p> <p>・外国人労働者の労働条件</p> <p>・コミュニティ、ルール</p> <p>といった、外国人側に立つと見えてくる問題点の紹介</p>	<p>・自分と違う国のことを知れる</p> <p>・楽しい</p> <p>などポジティブな意見が出たら、それらに触れつつ、すでに日本に根付いている外国文化を紹介する</p> <p>外国人が多い地域・学校の実例を細かく紹介することで、全国には新潟とは全く違う環境があるということを知ってもらう</p> <p>・外国人が増えると怖い</p> <p>などネガティブな意見が出たら、それらに触れつつ、日本人側からの意見だけでなく、外国人側に立った時に考えられる問題点も提示する</p>	<p>スライド (Power Point) 地図</p>	<p>特定のイメージを植えつけないようにする</p> <p>児童生徒が知りたくなる情報を手持ちとしておく</p> <p>質疑応答の時間を確保する</p> <p>日本人から外国人への視点の転換をうまく行う</p>
--------------------------	---	--	--	------------------------------	---

<p>まとめ : 結 (20 分)</p>	<p>グループワーク 「外国人になってみよう！」</p> <p>個人ワーク 「私たちにできることは？」</p> <p>チラシ配付</p>	<p>(設定) 言葉や文化、習慣も違う外国に家族で引っ越すことになった！ 「親と子供の2つの立場に分かれて、どんな時に困るか？どんな風に助けてほしいか？を考えよう！」</p> <p>それぞれのグループから発表してもらう</p> <p>「今考えてもらったようなことを感じている外国人が日本にもいます。そういう人のために何ができるでしょう」</p> <p>実際に自治体や学校で行われている対策を紹介するチラシを配布する</p>	<p>それぞれの立場に立って考えることで、「お父さん・お母さんなら仕事がないと大変だ」とか、「子供だったたら学校で言葉通じるかな」といったように、それぞれの立場で外国人側の気持ちを考えることで、より考えを深めてもらう</p>	<p>模造紙、ポストイット、ペン</p> <p>記述シート</p>	<p>対象学年に応じて追体験の場面設定に留意する</p> <p>↓</p> <p>他者の視点に立つことの大切さに気づいてもらう</p> <p>せっかく各自で考えてもらっているので、ここではスライドを使った説明などはあえてせず、紹介程度にとどめる</p>
----------------------------	--	---	--	-----------------------------------	--

5 : 会場のセッティング



※1班6～7人で机は無い方が有難いです。



6：使用する教材

- ・パソコン（パワーポイント）
- ・プロジェクター
- ・地図
- ・模造紙
- ・ポストイット
- ・ペン

7：参考にした資料

- ・向山恭一「多文化社会の学び方/つくり方」『社会科の研究』第21号（新潟県社会科教育学会）2016年2月
- ・田中宏『在日外国人〔新版〕』岩波新書 2013年
- ・宮島喬、鈴木江里子『外国人労働者受け入れを問う』岩波ブックレット 2014年
- ・「外国人@ニッポン」『朝日新聞』（名古屋本社版）2015年8月18・19・20・27・28・29日、9月8・9・10日、11月17・18・19・22・23日、12月1日、2016年1月8・27・28・30日、2月8・23日、4月8日、7月23日
- ・「隣の外国人」『朝日新聞』（東京本社版）2016年1月24・31日、2月7・14日
- ・「ブラジルタウン大泉町」『新日本風土記』（NHK-BSプレミアム、2016年7月22日放送）

8：その他

クラスに外国につながりをもつ持つ児童生徒さんがいらっしゃいましたら、国・地域など差支えない範囲で教えていただくとありがたいです。ワークショップの進行にあたって配慮したいと思います。